

樺太の見える島〈利尻山を滑る〉

日時 5月5～7日
メンバー 福田草雄

北海道の最北端稚内より1ミヤツフ2年を回った船は二時間後に駕泊の港へ到着しました。駕泊の街は、厳しい寒波の為に海は荒れて、うす黒い火色の街にはぼうりと雪が飛んでバラックの家がわざわざ立ち並んで、いかにも邊境の地へ来たという感じがして、胸を打つます。又利尻の山は真黒な雲につつまれて、その一部すら駕泊を見る事はできませんでした。しかし、国民宿舎の一泊する事にしました。東京を出発して1日もたつて、長旅の疲れが出て、どうか宿につくとすぐ横たなって夕食。時間にやると目をすす県合ひました。

翌、5月7日 朝3時起床。4時、薄す明かりになった駕泊の街を後に凍った雪道と利尻山へ向かいます。草独行の時はいざとうですが、重い気持につつまれて出発します。それでも利尻神社を過ぎる辺りから、いつのペースを取りとどめて一気に入山をまいと甘露水へ到着します。これがスキーリング山。タケカンバやハンノキの間に斜登山とキツク、ターンをくりかえす事しばらくして、東斜も増えて来ました。全山ハイマツが霧氷になつて、真冬の白鳥が登っている様な感じですが、只大変な寒さで、オバー、ヤツクとボン山上に羽毛のベストを着ても指先が凍る程です。

斜面がカーナビに乗って、どうしてもスキーリングはせんので、しかたなく靴でスティックで登りますが、靴先が3cm程挂かう程度です。草独行の為に荷をへらとうと、コツケルとアセニを車内へ車にあづけていふのが、いやもやります。と山じき強引に長官山1218mの真下まで下りましたが、足と斜面はずっと海の近くまでつづいていたので、二人ともスリップしました。スキーストックでは停められないので、どうも等と考えながら、残念でそのまま斜登山と申しました。草独行の為に無理も出来ません。

四時頃半かけで登りも、スキーなら早いですが、最初は凍った斜面を慎重に斜面降して下して、カンバの林に入ると雪がやわらかくなつて、木々とホールに見立て気ままに下りつづけます。登りはボン山445mをまいて下しましたが、真北の稚内方面と雪があるのが見えます。コースを真北と見てまっすぐ海岸へ滑り下りました。途中、えん堤があり雪が切れています。しばらくトネを歩いて下りましたが、突然、人豪の轍に出で、目の前に海が広がっていました。大変綺麗な海で、その後、荷物をカメを運んで、とぐとぐ食べながら登りました。とは言え、それでも振り返えり振えり利尻の山を見ながら、海岸の道をスキーやかいで駕泊の街へ歩いて帰りました。

福田